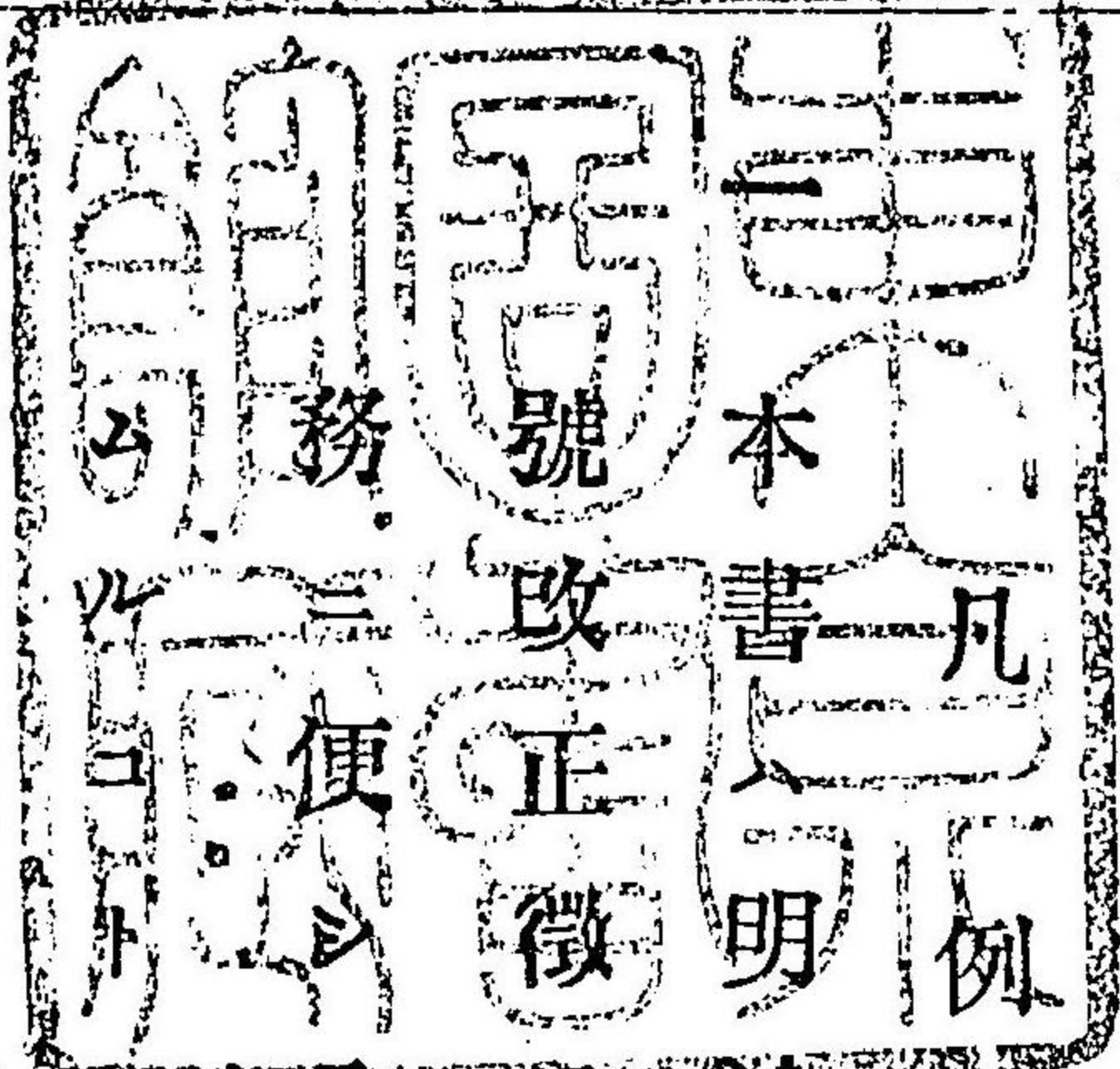


上田 載憲 校閱  
近藤 新太郎 編纂

改正  
徵兵令  
註釋

明治二十二年一月刊行

改正徵兵令註釋



治二十二年一月廿一日法律第一

且一般人民ニ其意義ヲ領會セシ

且一般人民ニ其意義ヲ領會セシ

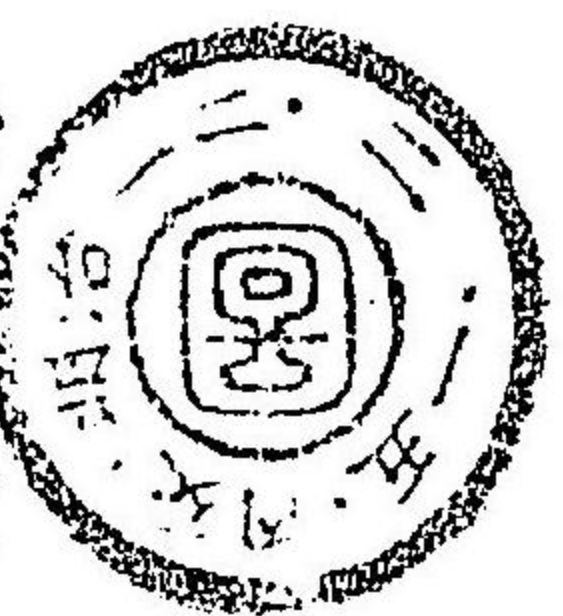
且一般人民ニ其意義ヲ領會セシ

一 本書既ニ當務者ノ事務ニ便スルヲ以テ舊

令ヲ上欄ニ掲ケ以テ對照ニ供ス

一 本書ハ一般人民ニ本令ノ意義ヲ領會セシ

ムルヲ旨ト爲スト雖モ敢テ無學ノモノ



爲メニスルニ能サレハ讀テ解スヘキ條項  
ニ一々解チ下スカ如キ勞チ取ラス

明治二十二年一月

編者識

勅諭寫

明治二十二年一月四日

國ノ軍隊ハ世々天皇ノ統率シ給フ所ニシテ  
昔神武天皇別ツカフ大伴物部ノ兵トモナリ  
中國ノマツロハクモノトモナリ討テ平ケ給ヒ  
詔書一冊ヲモテ天下シロシメ給ヒシ  
其後五百年ヲ經テ此間世ノ風ノ移リ  
兵制ノ沿革亦屢ナリキ古ハ大  
軍ヲ置キ兵制ノ沿革亦屢ナリ

ハ皇后皇太子ノ代ヲセ給フコトモアリツレト  
 大凡兵權ヲ臣下ニ委テ給フコトハナカリキ中  
 世ニ至リテ文武ノ制度皆唐國風ニ倣ハセ給ヒ  
 六衛府ヲ置キ左右馬寮ヲ建テ防人ナト設ケラ  
 レシカハ兵制ハ整ヒヌレトモ打續ケル昇平ニ  
 狙レテ朝廷ノ政務モ漸文弱ニ流レケレハ兵農  
 カノツカラニ分レ古ノ徵兵ハイツトナク壯  
 兵ノ姿ニ變リ遂ニ武士トナリ兵馬ノ權ハ一向  
 ニ其武士トモノ棟梁タル者ニ歸シ世ノ亂ト共

ニ政治ノ大權モ亦其手ニ落テ凡七百年ノ間武  
 家ノ政治トハナリヌ世ノ様ノ移リ換リテ斯ナ  
 レルハ人力モテ挽回スヘキニアラストハイヒ  
 ナカラ且ハ我國體ニ戻リ且ハ我祖宗ノ御制ニ  
 背キ奉リ淺間シキ次第ナリキ降リテ弘化嘉永  
 ノ頃ヨリ徳川ノ幕府其政衰ヘ爾外國ノ事トモ  
 起リテ其侮ヲモ受ケヌヘキ勢ニ迫リケレハ朕  
 カ皇祖仁孝天皇皇考孝明天皇イタク宸襟ヲ惱  
 シ給ヒシヨリ忝クモ又惶ケレ然ルニ朕幼クシ

天津日瀾の受たし初征夷大將軍其政權ヲ返  
上シ本名小名其版籍ヲ奉還シ年ヲ經スシテ海  
内一統ノ世トナリ古ノ制度ニ復シ又是文武ノ  
忠臣良弼アリテ朕ヲ輔翼セル功績ナリ歷世祖  
宗ノ專蒼生ヲ憐ミ給ヒシ御遺澤ナリトイヘト  
モ併我臣民ノ其心ニ順逆ノ理ヲ辨ヘ大義ノ重  
キヲ知レルカ故ニユソアレサレハ此時ニ於テ  
兵制ヲ更シ我國ノ光ヲ耀サント思ヒ此十五年  
カ程ニ陸海軍ノ制ヲハ今ノ様ニ建定メ又夫兵

馬ノ大權ハ朕カ統フル所ナレハ其司々ヲユソ  
臣下ニハ任スナレ其大綱ハ朕親之ヲ攬リ肯テ  
臣下ニ委ヌヘキモニアラス子々孫々ニ至ル  
マテ篤ク斯旨ヲ傳ヘ天子ハ文武ノ大權ヲ掌握  
スルノ義ヲ存シテ再中世以降ノ如キ失體ナカ  
ラシコトヲ望ムナリ朕ハ汝等軍人ノ大元帥ナ  
ルソサレハ朕ハ汝等ヲ股肱ト頼ミ汝等ハ朕ヲ  
頭首ト仰キテソ其親ハ特ニ深カルヘキ朕カ國  
家ヲ保護シテ上天ノ惠ニ應シ祖宗ノ恩ニ報イ

マ非ラヌル事ヲ得ルモ得サルモ汝等軍人カ其  
 職ヲ盡スト盡サハルトニ由ルソカシ我國ノ接  
 威振ハサルコトアラハ汝等能ク朕ト其憂ヲ共  
 ニセヨ我武維揚リテ其榮ヲ耀サハ朕汝等ト其  
 譽ヲ偕ニスヘシ汝等皆其職ヲ守リ朕ト一心ニ  
 ナリテ力ヲ國家ノ保護ニ盡サハ我國ノ蒼生ハ  
 永ク太平ノ福ヲ受ケ我國ノ威烈ハ大ニ世界ノ  
 光華トモナリヌヘシ朕斯モ深ク汝等軍人ニ望  
 ムナレハ猶訓諭スヘキ事ヨソアレイヤ之ヲ

ニ左述ヘム

一 軍人ハ忠節ヲ盡スヲ本分トスヘシ凡生ヲ我  
 國ニ稟クルモノ誰カハ國ニ報ユルノ心ナカ  
 ルヘキ況シテ軍人タラシ者ハ此心ノ固カラ  
 テハ物ノ用ニ立テ得ヘシトモ思ハレヌ軍人  
 ニシテ報國ノ心堅固ナラサルハ如何程技藝  
 ニ熟シ學術ニ長スルモ猶偶人ニモトシカル  
 ヘシ其隊伍モ整ヨ節制モ正クトモ忠節ヲ存  
 セザル軍隊ハ事ニ臨ミテ烏合ノ衆ニ同カル

へシ抑國家ヲ保護シ國權ヲ維持スルハ兵力  
 二在レハ兵力ノ消長ハ是國運ノ盛衰ナルコ  
 トヲ辨ヘ世論ニ惑ハス政治ニ拘ラス只女一  
 途ニ己カ本分ノ忠節ヲ守リ義ハ山嶽ヨリモ  
 重ク死ハ鴻毛ヨリモ輕シト覺悟セヨ其操ヲ  
 破リテ不覺ヲ取り汚名ヲ受クルナカレ  
 一軍人ハ禮儀ヲ正クスへシ凡軍人ニハ上元帥  
 ヨリ下一卒ニ至ルマテ其間ニ官職ノ階級ゾ  
 リテ統屬スルノミナラス同列同級トテモ侍

年ニ新舊アレハ新任ノ者ハ舊任ノモノニ服  
 從スヘキモノソ下級ノモノハ上官ノ命ヲ承  
 ルコト實ハ直ニ朕カ命ヲ承ル義ナリト心得  
 ヲ己カ隸屬スル所ニアラストモ上級ノ者ハ  
 勿論停年ノ己ヨリ舊キモノニ對シテハ總ヘ  
 テ敬禮ヲ盡スへシ又上級ノ者ハ下級ノモノ  
 ニ向ヒ聊モ輕侮驕傲ノ振舞アルヘカラス公  
 務ノ爲ニ威嚴ヲ主トスル時ハ格別ナレトモ  
 其外ハ務ノテ懇ニ取扱ヒ慈愛ヲ專一ト心掛

ク上下一致シテ王事ニ勤勞セヨ若軍人タル  
モノニシテ禮儀ヲ紊リ上ヲ敬ハス下ヲ惠マ  
スシテ一致ノ和諧ヲ失ヒタラシニハ管ニ軍  
隊ノ靈毒タルノミカハ國家ノ爲ニモユルシ  
難キ罪人ナルヘシ

一軍人ハ武勇ヲ尙フヘシ夫武勇ハ我國ニテハ  
古ヨリイトモ貴ヘル所ナレハ我國ノ臣民タ  
ラシモノ武勇ナクテハ叶フマシ況シテ軍人  
ハ戰ニ臨ミ敵ニ當ルノ職ナレハ片時モ武勇

ヲ忘レテユカルヘキカサハアレ武勇ニハ大  
勇アリ小勇アリテ同カラス血氣ニハヤリ粗  
暴ノ振舞ナトセシハ武勇トハ謂ヒ難シ軍人  
タラムモノハ常ニ能ク義理ヲ辨ヘ能ク膽力  
ヲ練リ思慮ヲ殫シテ事ヲ謀ルヘシ小敵タリ  
トモ侮ラス大敵タリトモ懼レス己カ武職ヲ  
盡サムヨリ誠ノ大勇ニハアレンサレハ武勇ヲ  
尙フモノハ常々人ニ接ルニハ温和ヲ第一ト  
シ諸人ノ愛敬ヲ得ムト心掛ク由ナキ勇ヲ



好ミテ猛威ヲ振ヒタラハ果ハ世人モ忌嫌ヒ  
テ豺狼ナトノ如ク思ヒナム心スヘキユトニ  
ユソ

一軍人ハ信義ヲ重シスヘシ凡信義ヲ守ルヨト  
常ノ道ニハアレトワキテ軍人ハ信義ヲ少テ  
ハ一日モ隊伍ノ中ニ交リテアラシムト難カ  
ルヘシ信トハ己カ言ヲ踐行ヒ義トハ己カ分  
ヲ盡スナイフナリサレハ信義ヲ盡サムト思  
ハシ始ヨリ其事ノ成シ得ヘキカ得ヘカラサ

ルカヲ審ニ思考スヘシ臆氣ナル事ヲ假初ニ  
諾ヒテヨシナキ關係ヲ結ビ後ニ至リテ信義  
ヲ立テントスレハ進退谷リテ身ノ措キ所ニ  
苦ムコトアリ悔ユトモ其詮カシ始ニ能ク事  
ノ順逆ヲ辨ヘ理非ヲ考ヘ其言ハ所詮踐ムヘ  
カラスト知り其義ハトモ守ルヘカラスト  
悟リナハ速ニ止ルユソヨクレ古ヨリ或ハ小  
節ノ信義ヲ立テントテ大綱ノ順逆ヲ誤リ或  
ハ公道ノ理非ニ踏迷ヒテ私情ノ信義ヲ守リ

アタラ英雄豪傑トモカ禍ニ遭ヒ身ヲ滅シ屍  
 ノ上ノ汚名ヲ後世マテ遺セルコト其例尠カ  
 ラヌモノヲ深ク警メテヤハアルヘキ  
 一軍人ハ質素ヲ旨トスヘシ凡質素ヲ旨トセザ  
 レハ文弱ニ流レ輕薄ニ趨リ驕奢華麗ノ風ヲ  
 好ミ遂ニハ貪汚ニ陥リテ志モ無下ニ賤クナ  
 リ節操モ武勇モ其甲斐ナク世人ニ爪ハシキ  
 セラル、迄ニ至リヌヘシ其身生涯ノ不幸ナ  
 リトイフモ中大愚ナリ此風一タヒ軍人ノ間

二起リテハ彼ノ傳染病ノ如ク蔓延シ士風モ  
 兵氣モ頓ニ衰ヘヌヘキコト明ナリ朕深ク之  
 ナ懼レテ曩ニ免黜條例ヲ施行シ略此事ヲ誠  
 ニ置キツント猶モ其惡習ノ出シコトヲ憂ヒ  
 テ心安カラテハ故ニ又之ヲ訓フルソカシ汝  
 等軍人ユメ此訓誡ヲ等間ニナ思ヒソ  
 右ノ五ヶ條ハ軍人タラシモノ暫モ忽ニスヘカ  
 ラスサテ之ヲ行ハシニハ一ノ誠心コソ大切ナ  
 シ抑此五ヶ條ハ我軍人ノ精神ニシテ一ノ誠心

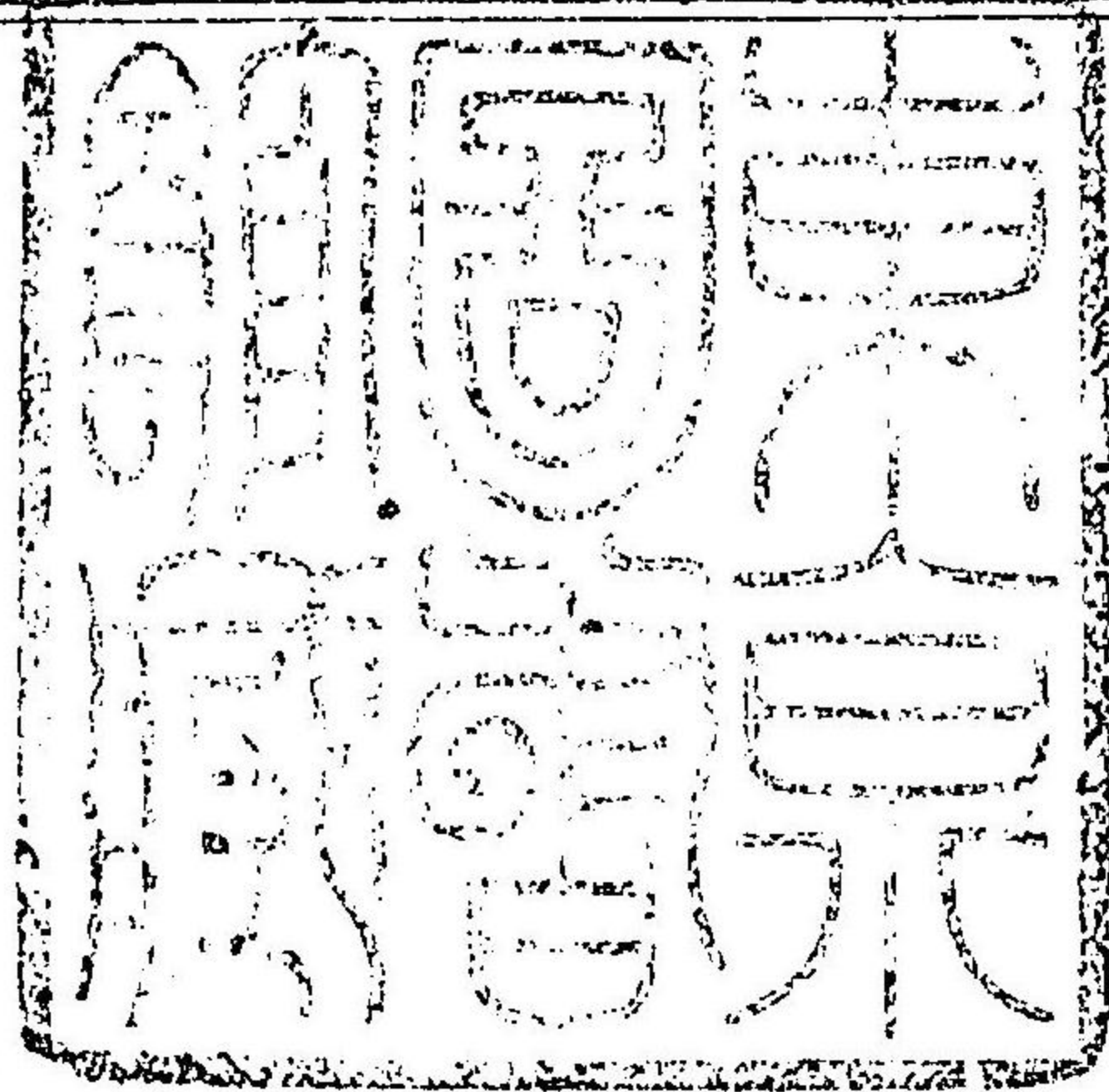
ハ又五ヶ條ノ精神ナリ心誠ナラサレハ如何ナ  
 嘉言モ善行モ皆ウハヘノ裝飾ニテ何ノ用ニ  
 カハ立ツヘキ心ヌニ誠アレハ何事モ成ルモノ  
 ソカシ況シテヤ此五ヶ條ハ天地ノ公道人倫ノ  
 常經ナリ行ヒ易ク守リ易シ汝等軍人能ク朕カ  
 訓ニ遵ヒテ此道ヲ守リ行ヒ國ニ報ユルノ務ヲ  
 盡サハ日本國ノ蒼生擧リテ之ヲ悅ヒチン朕一  
 人ノ懌ノミナランヤ

明治十五年二月四日

御名

舊徵兵令

第一章 總則



改正徵兵令註釋

第一章 總則

凡ソ事ノ生スルヤ各其目的ナカ  
ル可カラス熟ラ本令ノ改正アル  
由緣ヲ考察スルニ蓋シ兵役ノ義  
務ヲシテ益々平等ナラメノカ爲  
メ舊令猶豫ノ事項ヲ縮メテ實ニ  
社會進歩上缺ク可ラサル一ニノ  
モノヲ延期又ハ猶豫スルノ外兵  
役ノ大義務ヲ盡サシムルモノハ  
區域ヲ皇張シタルト漸次豫備後  
備兵服役者ノ員數増加スルニ隨

第一條 全國ノ男子年齡滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ハ總テ兵役ニ服ス可キモノトス

第二條 兵役ハ陸軍海軍共ニ常備兵役後備兵役及ヒ國民兵役トス

ヒ之ヲ引率スル將校下士モ亦増加セシメサルヲ得ス故ニ一年壯兵ヲ増殖シ特別ノ教育ヲナシテ其士官ヲラシメントス是レ本令ノ出ル所以ナラン

第一條 日本帝國臣民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ義務アルモノトス

第二條 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役及ヒ國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ別チテ現役及ヒ豫備役トス其現役ハ三箇年ニシテ年齡滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ其豫備役ハ四箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第三條 常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス現役ハ陸軍ハ三箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍ハ四箇年海軍ハ三箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

本條舊令ニ據レハ陸軍海軍共現役並ニ豫備役ノ年期差違ナカリシモ新令ニ於テ陸軍ハ現役三箇年豫備役四ヶ年ニシテ海軍ハ現役四ヶ年豫備役三ヶ年トナレリ

是レ蓋シ海軍ノ服務ハ科目夥多  
ニシテ三ヶ年ノ現役期限ニテハ  
習熟シ難キニ據ル

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ  
常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條 國民兵役ハ滿十七歳ヨリ  
滿四十歳迄ノ者ニシテ常備兵役  
及後備兵役ニ在ラサル者之ニ服  
ス

第六條 各兵役ノ期限既ニ滿ルト

第四條 後備兵役ハ五箇年  
ニシテ常備兵役ヲ終リタ  
ル者之ニ服ス

第五條 國民兵役ハ年齢滿  
十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ  
者ニシテ常備兵役及ヒ後  
備兵役中ニ在ラサル者之  
ニ服ス

第六條 各兵役ノ期限已ニ

滿ルト雖モ戰時或ハ事變  
ニ際スルトキ若クハ臨時  
ニ演習或ハ觀兵ノ舉アル  
トキ若クハ航海中或ハ外  
國駐割中ハ其期ヲ延スコ  
トアル可シ

第七條 重罪ノ刑ニ處セラ  
レタル者ハ兵役ニ服スル  
コトヲ許サス

雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ  
若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉  
アルトキ若クハ航海中或ハ外國  
駐割中ハ其期ヲ延ハスコトアル  
可シ

本條戰時トハ戰爭ノ有無ノ論セ  
ス宣戰ノ令下リタル後ヲ云ヒ事  
變トハ宣戰前ニ在テ準備ヲ爲ス  
場合ヲ指スナリ

第七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル  
者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サ  
ス

帝國臣民タルモノハ等シク兵籍ニ入ルノ權アルモノナリト雖モ本條ノ如キ罪科アル者ハ兵役ニ服サシメサルノミナラス兵籍ヲモ除シ去ル者トス

第二章 服役

第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵及ヒ雜卒職工ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

第二章 服役

第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵及ヒ雜卒職工ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ

海軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ沿海地方及島嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ服役スル者ハ本令ノ限ニアラス警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁ハ總テ之ヲ警備隊ニ充テ其地ニ於テ服役セシム但在營期限ハ一箇年以内トス

之ニ充ツ  
海軍現役兵ハ海軍所要ノ人員ニ應シ沿海地方及島嶼ノ人員ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工等ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ就役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス

雜卒トハ輜重輸卒、看護卒、會計卒、調馬卒及ヒ看的卒等ヲ總稱ス警備隊ハ該島防禦ノ爲メニ置クモノニシテ其場所ハ佐渡、隱岐、大島、五島、對馬等ノ諸島トス

第九條 雜卒ノ現役期限ハ其職務

ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十條 二十歳ニ至ラスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ由リ現

第九條 陸軍雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ  
第十條 年齢二十歳ニ滿タスト雖モ滿十七歳以上ノ

現役ニ服スルコトヲ得

第十一條 滿十七歳以上滿二十六歳以下ニシテ官立學校(帝國大學撰科及小學科ヲ除ク)府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ

者ハ現役ヲ志願スルコトヲ得

第十一條 年齢滿十七歳以上滿二十七歳以下ニシテ官立府縣立學校(小學校ヲ除ク)及ヒ文部大臣ニ於テ認メタル之ト同等ノ學校ノ卒業證書ヲ所持シ服役中食料被服等ノ費用ヲ自辨スル者ハ願ニ因リ一個年間陸軍現役ニ服セシム其技藝ニ熟達スル者ハ若



千月ニシテ歸休ヲ命スル  
コトアル可シ但常備兵役  
ノ全期ハ之ヲ減スルコト  
ナシ

陸軍試験委員ノ試験ニ及第シ服  
役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自  
辨スルモノハ志願ニ由リ一箇年  
間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但  
費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ニハ其  
幾部ヲ官給スルコトアル可シ  
前項ノ一年志願兵ハ特別ノ教育ヲ授ケ現役滿期  
ノ後二箇年間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシ  
ム  
滿十七歳以上二十六歳以下ニシテ官立府縣立師  
範學校ノ卒業生ハ六箇月間陸軍現役ニ服スルコト

トヲ得其服役中ノ費用ハ當該學校ヨリ之ヲ辨償  
スルモノトス

前項志願兵ニシテ現役ヲ終リタルモノハ七箇年  
間豫備役ニ服シ三箇年間後備役ニ服ス

本條志願兵ハ陸軍ニ限ルモノトス而シテ其食料被  
服裝具等ノ費用ヲ自辨セシムル所以ハ元來一年壯  
兵ハ其部隊ノ定員外ナレハナリ但現今ノ情況ニ於  
テハ學問ヲ爲スモノ修業中ノ費用ハ他人ノ補助ヲ  
受クル者多キカ如シ然ルニ是等ノ壯丁ヲシテ費用  
ノ爲メ其志ヲ爲サシメサルハ酷ニ過ルカ如シ故ニ  
幾部ヲ官給スルノ特典アルニ至レリ

一年志願兵ノ特別ノ教育ヲ受クル所以ハ素ト本令  
 ナ改正スルノ原則ノ基礎ニシテ即チ豫備後備ノ士  
 官ヲ養成スル目的ニ出ル者ナリ  
 官立府縣立學校ノ卒業者ヲ六ヶ月間現役ニ服サシ  
 ムル特例アル主意ハ同卒業者ニシテ小學校教員タ  
 ルモノヲ觀察スル由縁ニシテ是レ等教員タルモノ  
 歸休シテ尙ホ原校ニ復職スルトキハ其服役中修業  
 シタルモノヲ以テ學校ノ教育ニ施シ好結果ヲ得ル  
 ノミナラス体育上大ニ裨益アリ是レ蓋シ其費用ヲ  
 當該學校ニ辨償セシムル所以ナリ

第十二條 現役中殊ニ技藝ニ熟シ行狀方正ナル者及

第十二條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ依リ懲罰ニ處セラ

ヒ官立公立學校(小學校ヲ除ク)及ヒ文部大臣ニ於テ認メタル之ト同等ノ學校ノ步兵操練科卒業證書ヲ所持スル者ハ其期末ヲ終ラスト雖モ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十三條 豫備兵ハ戰時若シハ事變ニ際シ之ヲ召集シ常備隊ヲ充實シ又補充隊ニ編制ス平常ニ在テハ技藝復習ノ爲メ毎年一度

レタルモノハ一年志願兵タルコトヲ許サス

一年志願兵ハ豫備後備ノ士官タラシムルモノトスルナリ故ニ仮ニ學力アルモ其身分卑シカラサルモ品行方正ナラサル本條ノ如キ者ハ服役セシメサルナリ

第十三條 現役中殊ニ勤務ニ熟シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアル可シ

六十日以内之ヲ召集シ又  
兵員實查ノ爲メ毎年一度  
點呼ヲ爲メ但海軍豫備兵  
ハ技藝復習ノ爲メ召集ス  
ルコトナシ

第十四條 後備兵ハ戰時若  
クハ事變ニ際シ豫備兵ニ  
次テ之ヲ召集シ常備兵ノ  
後援ト爲ス平常ニ在テ其  
技藝復習ノ爲メニ召集シ  
及ヒ兵員實查ノ爲メニ點  
呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同

第十四條 豫備兵ハ戰時若クハ事  
變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テ  
ハ毎年一度六十日以内勤務演習  
ノ爲メ之ヲ召集シ又毎年一度簡  
閱點呼ヲナス  
勤務演習トハ營テ在營中習熟シ  
タル兵務ヲ復習ノ爲メ召集スル

シ

第十五條 國民兵ハ戰時若  
クハ事變ニ際シ後備兵ヲ  
召集シ仍ホ兵員ヲ要スル  
トキニ限り之ヲ召集シ隊  
伍ニ編制シテ軍役ニ充ツ

第三章 免除及ヒ猶豫  
第十六條 兵役ヲ免除スル  
ハ廢疾又ハ不具等ニシテ  
徵兵檢査規則ニ照シ兵役

ナ云ヒ簡閱點呼トハ監視區長ノ  
指定ノ場所へ會集シ同官ノ實查  
ヲ受ルヲ云フ

第十五條 後備兵ハ戰時若クハ事  
變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集  
ス平常ニ在テ勤務演習及簡閱點  
呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第十六條 國民兵ハ戰時若クハ事  
變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵  
員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集ス

ニ堪へサル者ニ限ル

第十七條 左ニ掲クル者ハ

徴集ヲ猶豫ス但其年補充  
員不足スルトキ又ハ戰時

若クハ事變ニ際シ兵員ヲ

要スルトキハ之ヲ徴集ス

第一項 兄弟同時ニ徴集

ニ應スル者ノ内一人及

ヒ現役兵ノ兄或ハ第一

人

第二項 現役中死没又ハ

公務ノ爲メ負傷シ若ク

第三章 免役延期及猶豫

第十七條 兵役ヲ免スルハ癱疾又

ハ不具等ニシテ徴兵検査規則ニ

照シ兵役ニ堪へサル者ニ限ル

癱疾トハ精神上用ヲ爲サ、ル者

瘋癲白痴及ヒ身体上ノ缺損又ハ

短少ヲ云ヒ不具トハ盲者瘖啞者

等ヲ云フ是等ハ全ク兵役ノ任用

ニ堪へサル者ナレハ兵役ヲ免除

スルナリ

ハ疾病ニ罹リ免役シタ  
ル者ノ兄或ハ第一人

第三項 戸主年齢滿六十

歳以上ノ者ノ嗣子或ハ

承祖ノ孫

第四項 戸主癱疾又ハ不

具等ニシテ一家ノ生計

ヲ營ムコト能ハサル者

ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第五項 戸主

第十八條 左ニ掲クル者ハ

其事故ノ存スル間徴集ヲ

第十八條 左ニ掲クル者ハ徴集ヲ

延期ス次年ニ於テ仍ホ徴集ニ適

猶豫ス

第一項 教正ノ職ニ在ル者

第二項 官立府縣立學校

(小學校ヲ除ク)及ヒ文部

大臣ニ於テ認メタル之

ト同等ノ學校ノ卒業證

書ヲ所持スル者ニシテ

官立公立學校教員タル

者

第三項 官立大學校及ヒ

之ニ準スル官立學校本

セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第一 體格完全且強壯ナルモ身

幹未タ定尺ニ滿タサル者

第二 疾病中又ハ病後ニシテ勞

役ニ堪ヘサル者

舊令ニ在テモ本條相當者ヲ猶豫

セシト雖モ其猶豫ノ年期ニ限畫

スル所ナカリシヲ本令ニ於テ次

年尙ホ事故ノ存スルモノハ直ニ

國民兵役ニ服セシムルヲトナシ

リ

科生徒

第四項 陸海軍生徒海軍

工夫

第五項 身幹未タ定尺ニ

滿タサル者

第六項 疾病中或ハ病後

ノ故ヲ以テ未タ勞役ニ

堪ヘサル者

第七項 學術修業ノ爲メ

外國ニ寄留スル者

第八項 禁錮以上ニ該ル

可キ刑事被告人ト爲リ

裁判未決ノ者

第十九條 公權ノ剝奪若クハ停止

第九項 公權停止中ノ者

ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲メ訊問

若クハ拘留中ノ者ハ徵集ヲ延期ス

兵役ニ就クハ一方ヨリ觀ルトキハ男子固有ノ權  
理ナリト雖モ本條ノ如キ罪科アリ其處分未決ノ  
者ハ其事故ノ存スル間全然護國ノ大任ニ當ラシ  
メサルモノトス

第二十條 徵集ニ應スルトキハ其家族自活シ能

ハサルノ確證アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ  
延期ス其事故三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル  
者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家

再興ノ故ヲ以テ本條ニ當ル者其他自活シ能ハ  
サル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可セス

本條ハ專ラ貧困者ヲ救護スルモノニシテ壯丁徵  
集ニ應スルキハ家族ノ爲メニ餓死スルカ如キ狀  
況アル者ヲ本人(壯丁)ノ出願ニ由リ延期スルモノ  
ナリ其次年ニ尙ホ同様ノ事情存スレハ更ニ本人  
ノ出願ヲ要シ第三年ニ至リ尙又其事情ノ繼續シ  
出願スレハ家事ヲ顧慮セシムル爲メ現役ニ服セ  
ス直ニ國民兵役ニ服セシム  
但以下ハ專ラ忌避者ヲ防クノ主意ニシテ仮ニ其  
事實貧困ノ狀況アルニモセヨ其將來ヲ慮ラス分  
家又ハ絶家廢家ヲ再興シタルモノナレハ延期ノ  
特典ニ與ルヲ得ス況ヤ特ニ其事故ヲ作爲シタル  
者ニアリテハ勿論延期ノ限リニ非サルナリ

第十九條 官立府縣立學校

(小學校ヲ除ク)及ヒ文部大臣ニ於テ認メタル之ト同等學校ニ於テ修業一個年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ハ六個年以内徵集ヲ猶豫ス

第二十一條 第十一條ニ掲クル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ由リ

滿二十六歲迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿二十六歲迄ニ止ミ又ハ二十六歲ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但第十一條ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス

學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者ハ本人ノ願

ニ由リ滿二十六歲迄徵集ヲ猶豫ス二十六歲迄

ニ歸朝シ又ハ二十六歲ヲ過キ歸朝スル者ハ抽

籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但陸軍試驗委員ノ試験ニ及第シタル者ハ一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

本條ハ成ルヘク學生ヲシテ學問ヲ中道ニ廢セシムルカ如キコトナカラシムルノ主意ナリ故ニ本人ノ出願ニ由リ滿二十六歲マテ猶豫ス其二十六歲迄ト限定シタル由縁ハ蓋シ内外何レノ學校ニ在テモ滿二十六歲迄ニハ最高等ノ敎則ヲ卒業シ得ヘケレハナリ又其年期ヲ過レハ抽籤ノ法ニ據ラス徵集スルノ理由ハ兵員ヲシテ卑賤ノ者ノミノ集合タラシメス成ルヘク資力アルモノ學力ヲ

供へタル者ヲ多ク入營セシメ護國兵ノ品位ヲ昇  
カラシムルノ主意ナルヘシ

第二十條 左ニ掲クル者ハ  
豫備兵ニ在ルト後備兵ニ  
在ルトヲ問ハス復習點呼  
ノ爲メ召集スルコトナシ  
但戰時若クハ事變ニ際シ  
テハ太政官ノ決裁ヲ經テ  
召集スルコトアルヘシ

第二十二條 餘人ヲ以テ代フ可カ  
ラサル職務ヲ奉スル官吏及市町  
村長、助役及收入役ハ豫備兵ニ在  
ルト後備兵ニ在ルトヲ問ハス勤  
務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スル  
コトナシ  
法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議  
員其開會中亦同シ  
法律ヲ以テ設立シタル議會トハ

第一項 官吏判任以上及ヒ戶長  
第二項 教導職試補ヲ除ク  
第三項 官立公立學校及ヒ

文部大臣ニ於テ認メタ  
ル之下同等ノ學校教員

府縣會郡會市會及町村會等ヲ云  
フ

第四項 府縣會議員

第五項 官立府縣立醫學  
校及ヒ文部大臣ニ於テ認メタル之下同等ノ學校ノ卒業證  
書ヲ所持シテ醫術開業ノ者

第二十一條 官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フ可カラサル  
技術ノ職ヲ奉スル者ハ太政官ノ決裁ニ依テ徵集ヲ猶豫スル  
コトアル可シ

第二十二條 左ニ掲クル者ハ第十七條ニ照シテ徵集ヲ猶豫ス  
ルノ限ニ在ラス

第一項 附籍戶主及ヒ附籍戶主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫



第二項 癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ嗣子承祖ノ孫若クハ相續人ヲ罷メ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

第三項 年齡六十歳未滿ノ戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ年齡六十歳以上ノ者ニシテ其跡ヲ繼キタル戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第四項 分家シ又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戸主及ヒ其戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第五項 嗣子承祖ノ孫失踪シテ五個年ヲ經サル者ノ跡ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

第六項 第二項第三項第四項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシ

テ戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主

第七項 年齡六十歳未滿ノ者癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主

第八項 嗣子承祖ノ孫又ハ相續人癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ノ死亡跡若クハ戸主ヲ罷メタル跡ヲ繼カス他ノ者ニシテ其跡ヲ繼キタル戸主

第九項 戸主失踪シテ五個年ヲ經サル者ノ跡ヲ繼キタル戸主

第二十三條 第十八條第一項第二項第三項第四項 陸海軍生徒ヲ除ク 第

十九條第二十一條ニ當ル者ト雖モ第三十五條ニ示シタル徵兵各自屆出期限即チ四月十六日以後ニ係ル者ハ徵集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラス

第四章 徵兵區及ヒ抽籤

第二十四條 徵兵區ハ軍管師管及ヒ府縣ノ區域ニ從フ其軍管ニ從フモノヲ軍管徵兵區ト爲シ師管ニ從フモノヲ師管徵兵區ト爲ス府縣ニ從フモノヲ府縣徵兵區ト爲ス但府縣ノ管地兩師管ニ分屬スルモノハ師管毎ニ一區ヲ設ク又警備隊ヲ

本令ニ舊令第四章徵兵區及ヒ抽籤ノ一章ヲ全廢シタル所以ハ抑モ本令ハ兵役負擔ノ義務ニ係ルコトヲ掲クル法律ニシテ徵兵區又ハ抽籤ノ如キ行政事務ニ屬スルコトヲ規定スヘキモノニ非ラス是等ハ宜シク徵兵事務條例ニ掲載スヘキモノナルヲ以テナリ

置キタル島嶼ハ各別ニ一區ト爲ス

第二十五條 各鎮臺ニ屬スル歩兵ハ其師管徵兵區限リ其他ノ諸兵ハ其軍管徵兵區限リ之ヲ徵集ス但現役徵員及ヒ其補充員不足スルトキ歩兵ハ他ノ師管其他ノ諸兵ハ他ノ軍管徵兵區ヨリ之ヲ補フ

海軍及ヒ近衛ノ諸兵ハ各軍徵兵管區ニ配當シテ全國ヨリ之ヲ徵集ス

第二十六條 抽籤ハ各府縣徵兵區限リ之ヲ行フモノトス

府縣徵兵區ニ於テハ其區壯丁ノ身體検査終リタル後兵役ニ適ス可キ人員ノ身材職業ニ從ヒ兵種ヲ區別シ番號ヲ定メ抽籤セシム

第二十七條 籤ハ一郡區毎ニ籤丁ノ人撰ヲ以テ一名乃至三名

ノ總代人ヲ出シテ之ヲ抽カシム

第二十八條 抽籤ノ法ハ籤丁ノ數ニ應シ籤札ニ兵種番號ヲ記シ籤箱ニ納シ籤簿掛ノ面前ニ置キ籤丁名簿ノ順序ニ從ヒ其氏名ヲ呼ヒ總代人ニ之ヲ抽カシメ籤簿掛ハ抽籤ノ正否ヲ監シ抽キ擧クル所ノ番號ヲ高聲ニ呼ハシメ其籤札ヲ受取リ籤簿ニ氏名番號ヲ記シ籤札ハ總代人ニ交付ス

第五章 補充員及ヒ豫

備徵員

第三十條 補充員ハ補充籤ヲ抽キタル者ヲ以テ一個

第四章 豫備徵員

第二十三條 抽籤番號ノ順序ニ從ヒ毎年所要ノ現役兵員ニ超過ス

年間之ニ充ツ其期限内現役兵欠員スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ其番號ノ順序ニ從ヒ徵集ス補充員ノ數ハ概テ現役徵員五分ノニヨリ少カラサルモノトス

第三十一條 補充員ニシテ其期限内徵集ノ命ナキ者及ヒ第十八條第三項ノ生徒ニシテ二個年以上ノ課

ル壯丁ハ一箇年間十二月一日ヨリ起算ス豫備徵員トシ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ又ハ其年徵集ノ兵員缺クルトキ之ヲ徵集ス

第二十四條 豫備徵員ニシテ其期限内ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

程ヲ卒リタル者ハ年齢満二十七歳迄之ヲ第一豫備徴員トス  
 第三十二條 第十七條ニ當ル者ニシテ其年徴集ノ命ナキ者第  
 十八條第二十一條ニ當ル者ニシテ七個年間其事故ノ存スル  
 者及ヒ第一豫備徴員ヲ終リタル者年齢満三十二歳迄ハ之ヲ  
 第二豫備徴員トス但第十七條ニ當ル者第二豫備徴員ト爲リ  
 タル後六個年間ニ該條ニ掲クル資格ヲ失ヒタルトキハ現役  
 ニ徴集ス

第三十三條 豫備徴員ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スル  
 トキ之ヲ徴集ス但第二豫備徴員ヲ徴集スルハ後備兵ヲ召集  
 スルトキニ限ル

第六章 雜則

第三十四條 毎年一月ヨリ

第五章 雜則

本令ニ於テ十七歳ノ届出ヲ廢止

十二月迄ニ年齢満十七歳  
 ト爲ル者ハ其年ノ四月一  
 日ヨリ同月十五日迄ニ戶  
 主 本人戸主ナレハ自身以下  
 戸主トアルモノ皆同シ ヨリ本  
 人ノ氏名族籍住所誕生ノ  
 年月日及ヒ職業ヲ記載シ  
 本籍ノ戶長ニ届出可シ

シタル理由ヲ考フルニ蓋シ十七  
 歳ヨリ滿二十歳迄ノ者ハ未タ曾  
 テ兵務ニ服サレバ直ニ以テ戰  
 役ニ用フ可カラス故ニ有事ノ日  
 國民兵ヲ召集スルニハ先ツ後備  
 兵役ヲ終リタル者ヲ召集シ次ニ  
 二十歳以上ノ國民兵ヲ召集スル  
 トキハ其人員夥多ナルヲ以テ敢  
 テ二十歳未滿者ヲ召集スルノ必  
 用アラサルヘシ若シ萬一之レア  
 リトセハ其時ニ臨ミ健康ノ者ヲ  
 撰用シテ差支ヘナカルベキカ故  
 ナリ

第三十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齡滿二十歳ト爲ル者ハ其年ノ四月一日ヨリ同月十五日迄ニ書面ヲ以テ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出可シ若シ届出ノ後十一月二十日迄ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ但二十歳未滿ニシテ現服ニ役スル者ハ届出ルニ及ハス

第三十六條 第十七條ニ當

第二十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歳ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ書面ヲ以テ戸主ニ非サル者ハ其戸主ヨリ本籍ノ市町村長ニ届出可シ但二十歳未滿ニシテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス

ル者其資格ヲ失ヒ第十八條第十九條第二十一條ニ當ル者其事故止ニ及ヒ第三十二條但書ニ當ル異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ其年十一月二十一日以後十二月三十一日迄ニ係ル者ハ翌年四月一日迄ニ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出可シ但四月十六日以後十一月二十日以前本條ニ當ル者ハ三日以内

ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ  
 第三十七條 他ノ府縣ニ寄留スル者其地ニ於テ徵集ニ應セント欲スルトキハ其地ニ居住スル者<sup>戸主</sup>ヲ以テ證人ト爲シ三月十五日迄ニ戸主ヨリ其旨ヲ本管廳ニ願出可シ但第三十五條ノ届書ハ寄留地ノ戸長ニ差出ス可シ  
 第三十八條 現役兵在營在艦中ハ定額ノ日給ヲ與ヘ

第二十六條 徵集ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルヲ例トス他ノ徵募區ニ寄留スル者ハ願ニ由リ其區ニ於テ徵集ニ應スルコトヲ得

服食等ヲ給ス

第三十九條 疾病或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ其事由ヲ詳記シ其疾病ニ罹ル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ即日戸長ニ届出可シ其事故止ムトキ亦同シ  
 第四十條 第三十九條ニ掲ル者翌年四月一日ニ至ルモ事故猶止マサルトキハ之ヲ翌年廻シノ者ト爲シ

第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス

翌年更ニ検査ヲ遂ケ他ノ  
徴員ニ先チ徴集ス可シ但  
戰時若クハ事變ニ際シ兵  
員ヲ要スルトキハ翌年徴  
集ノ期ヲ待テ大徴集ス

第四十一條 兵役ヲ免レシ  
カ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病  
ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲  
ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潜  
匿シタル者又ハ正當ノ故  
ナク検査所ニ參會セス又  
ハ第三十五條第三十六條

第二十八條 兵役ヲ免レシカ爲メ  
身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他  
詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若ク  
ハ潜匿シタル者又ハ正當ノ事故  
ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ  
抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徴集  
ス

ノ届出ヲ怠リタル者ハ抽  
籤ノ法ヲ用ヒス直ニ現役  
ニ徴集シ又ハ翌年検査ヲ  
遂ケ第四十條ニ掲クル者  
ニ先チ抽籤ノ法ヲ用ヒス  
徴集ス

第四十二條 常備現役年期  
ノ計算ハ總テ其入營年ノ  
四月二十日 第四十一條ニ掲ケ  
ル者ハ入營ノ當日  
ヨリ起算シ豫備役及ヒ後備  
役年期ノ計算ハ其定例編  
入ス可キ年ノ四月二十日

本條ハ服役ヲ免レシトスル者カ  
身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ或ハ  
潜匿シタル等種々ノ手段ヲ以テ  
徴兵署ニ參會スルコトヲ怠リタ  
ルモ結局期日迄ニ入營シタル者  
ノ扱ナリ

第二十九條 現役年期ノ計算ハ總  
テ其入營スル年ノ十二月一日ヨ  
リ起算シ豫備役及後備役年期ノ  
計算ハ其轉役スル年ノ十二月一  
日ヨリ起算ス第六條ニ依リ延期  
シタル者モ其起算法亦同シ但禁

ヨリ起算ス但禁錮ノ刑ニ  
處セラレ又ハ監視ニ付セ  
ラレ又ハ逃亡シタル者其  
刑期中ノ日數及ヒ逃亡中  
ノ日數ハ服役年期ニ算入  
セス

錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付  
セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタ  
ル者其刑期中及逃亡失踪中ノ日  
數ハ服役年期ニ算入セス

豫備後備役年期ノ計算方ハ仮ヘ  
其定期節ニ先チ歸郷スルモ又第  
六條ニ依リ除隊期限延期スルモ  
官ノ命令ニ基スル者ハ轉役年ノ  
十二月一日ヨリ起算シ犯罪又ハ  
失踪逃亡等ニテ勤務ニ服セサル  
日數ハ償勤セシムルヲ云フナリ

### 第六章 罰則

第四十三條 第三十四條第  
三十五條第三十六條第三  
十九條ノ届出ヲ爲サ、ル  
者及ヒ検査時日ノ指定ヲ  
受ケ正當ノ故ナク其場所  
ニ參會セサル者ハ三圓以  
上三十圓以下ノ罰金ニ處  
ス

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲  
サ、ル者及正當ノ事故ナク身體  
ノ検査ヲ受ケサル者ハ三圓以上  
三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 兵役ヲ免レン  
カ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ  
若クハ身體ヲ毀傷シ疾病

第三十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ  
逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ  
毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐偽ノ



ヲ作爲シ其他詐偽ノ所爲  
アル者ハ一月以上一年以  
下ノ重禁錮ニ處シ三圓以  
上三十圓以下ノ罰金ヲ附  
加ス

所爲ヲ用ヒタル者ハ一月以上一  
年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上  
三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四十五條 本令施行ノ爲

第七章 附則

メニ要スル規則ハ別ニ布  
達ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 本令ハ明治二十二年

届出期限ハ明治二十二年ニ限り三月一日ヨリ

同月十五日迄トス

第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山

ヲ除クノ外及沖繩縣並東京府管下小笠原島ニ  
ハ當分之ヲ施行セス

第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村

制ヲ實施スル迄ノ間戸長ノコトトス

第三十五條 舊令第十一條ニ依リ一箇年間陸軍

現役ニ服シタル者ハ本令第十一條ニ照シ二箇

年間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシメ其豫

備役二箇年ヲ終リタル者ハ直ニ後備役ニ服セ

シメ通シテ七箇年トス

通シテ七箇年トストハ譬ヘハ茲ニ 明治二十二  
年一月ニテ 豫備

役三ヶ年ニ滿ル者アリトスレハ之ヲ直ニ後備役ニ編入シ後備役年期ハ五箇年ナルモ既ニ豫備役ニ在テ三年ヲ經過シタルハ四箇年丈ケ後備役ニ服セシメ豫備後備在役中ノ年數ヲ通算シテ七箇年ト爲スヲ云フナリ

第三十六條 舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム  
本條ハ明治二十一年以前徵兵適齡者ノ既ニ舊令第十七條ニ據リ徵集猶豫トナリタルモノ常備七箇年ヲ過キタルトキノ扱ヲ示スモノナリ

第三十七條 舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十八條 舊令第十八條第七項及第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員ト爲リ仍ホ在校ノ者ハ該徵員タ

ルコトヲ止メ滿二十七歳迄徴集ヲ猶豫シ其事  
故二十七歳ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國  
民兵役ニ服セシム

舊令第十八條第三項ノ生徒ハ同令第三十一條ニ  
據リ二箇年以上ノ課程ヲ卒リタルトキヨリ第一  
豫備徴員トナリシナリ

第四十條 第三十六條第三十七條第三十八條及  
第三十九條ニ掲クル者其事故各其本條ノ期限  
内ニ止ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徴集ス但  
一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十一條 舊令第十八條第三項若クハ第十九

條ニ依リ徴集猶豫ニ屬シ在校ノモノハ其事故  
六箇年以内ニ止ミタルトキ又ハ六箇年ヲ過シ  
ルモ仍ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徴集  
ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

等シク舊令第十八條第三項ノ生徒併カモ共ニ在  
校ノ者ニシテ本條及第三十九條ノ場合ニ其扱ヲ  
異ニスル所以ハ第三十九條ノ場合ハ既ニ二箇年  
ヲ經テ第一豫備徴員ノ資格ヲ得タル者ナルモ本  
條ノ場合ニテハ未タ其資格ニ適セス只猶豫ノ時  
限中ニアルヲ以テ全然新令ヲ以テ支配スル者ナ  
リ

第四十二條 舊令第三十條ニ依リ補充員ト爲リ

タル者ハ之ヲ豫備徵員ト爲シ一箇年間明治廿一年十二月一日

ヨリ起ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第四十三條 舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徵

員ト爲リ在校セサル者及舊令第三十二條ニ依

リ第二豫備徵員ト爲リタル者ハ直ニ國民兵役

ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徵員ト爲リタ

ル者亦同シ

第四十四條 明治十二年第四十六號布告徵兵令

ニ依リ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ徵

集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシ

ム

第四十五條 舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタ

ル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニ依ル

第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條

ニ掲クル徵集延期ノ者及第三十九條第四十一

條ニ掲クル徵集猶豫ノ者其事故各其本條ノ期

限内ニ止ミタルトキハ三日以内ニ本籍ノ市町

村長ニ届出可シ

前項ノ届出ヲ爲サル者及本令施行前舊令第

三十五條第三十六條ノ届出ヲ爲サスシテ本令

施行後ニ於テ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依  
リ處分ス可シ

版權登錄

明治二十二年一月三十一日印刷  
全年全日出版

編纂者兼  
發行者

京都府

近藤新太郎

上京區第十組  
岡松町五番戶

京都府平民

中西嘉助

上京區第廿組西  
大路町拾番戶

印刷者

京都下立賣通小川東へ入

大賣捌

中西松香堂

京都松原通寺町西入

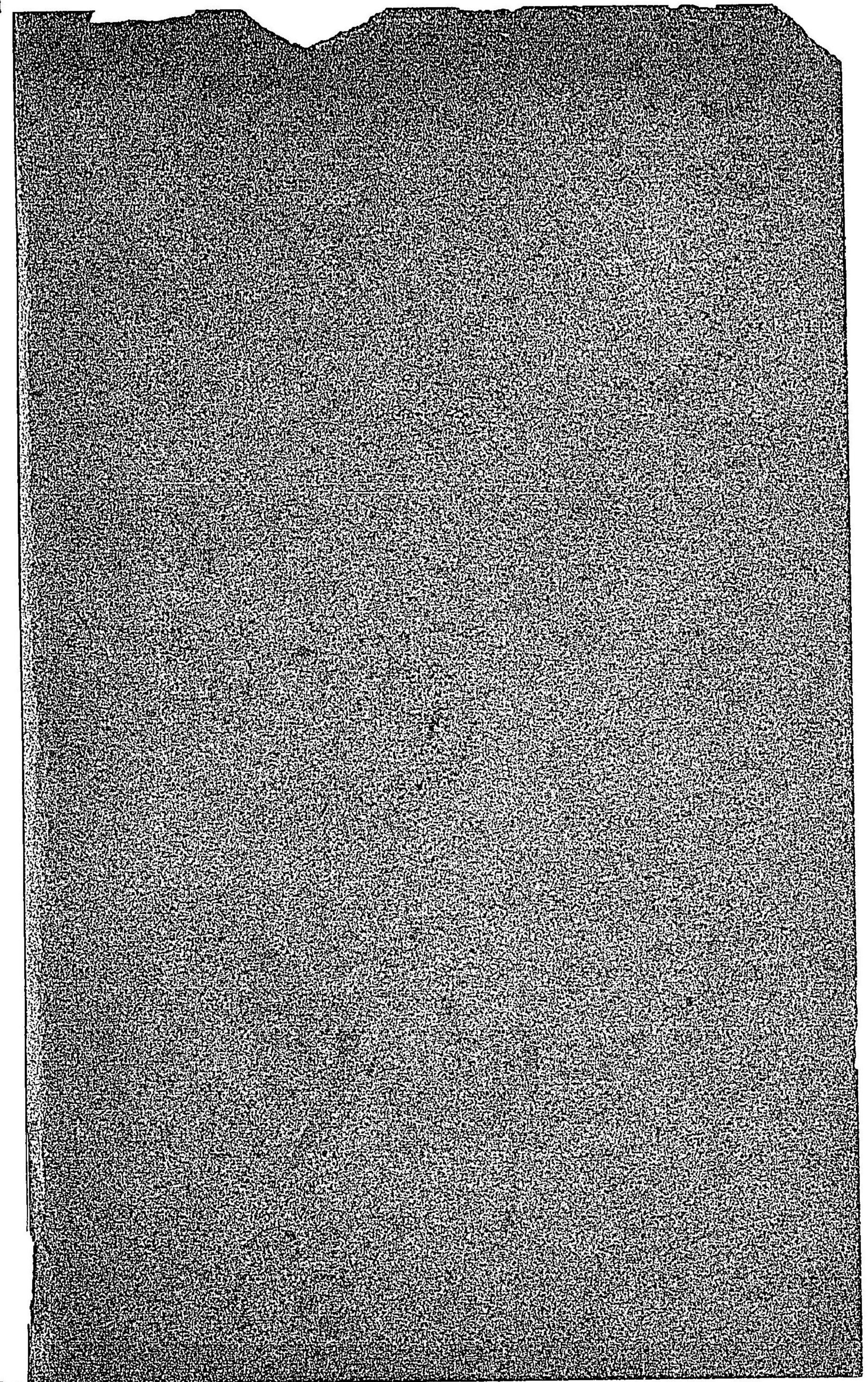
全

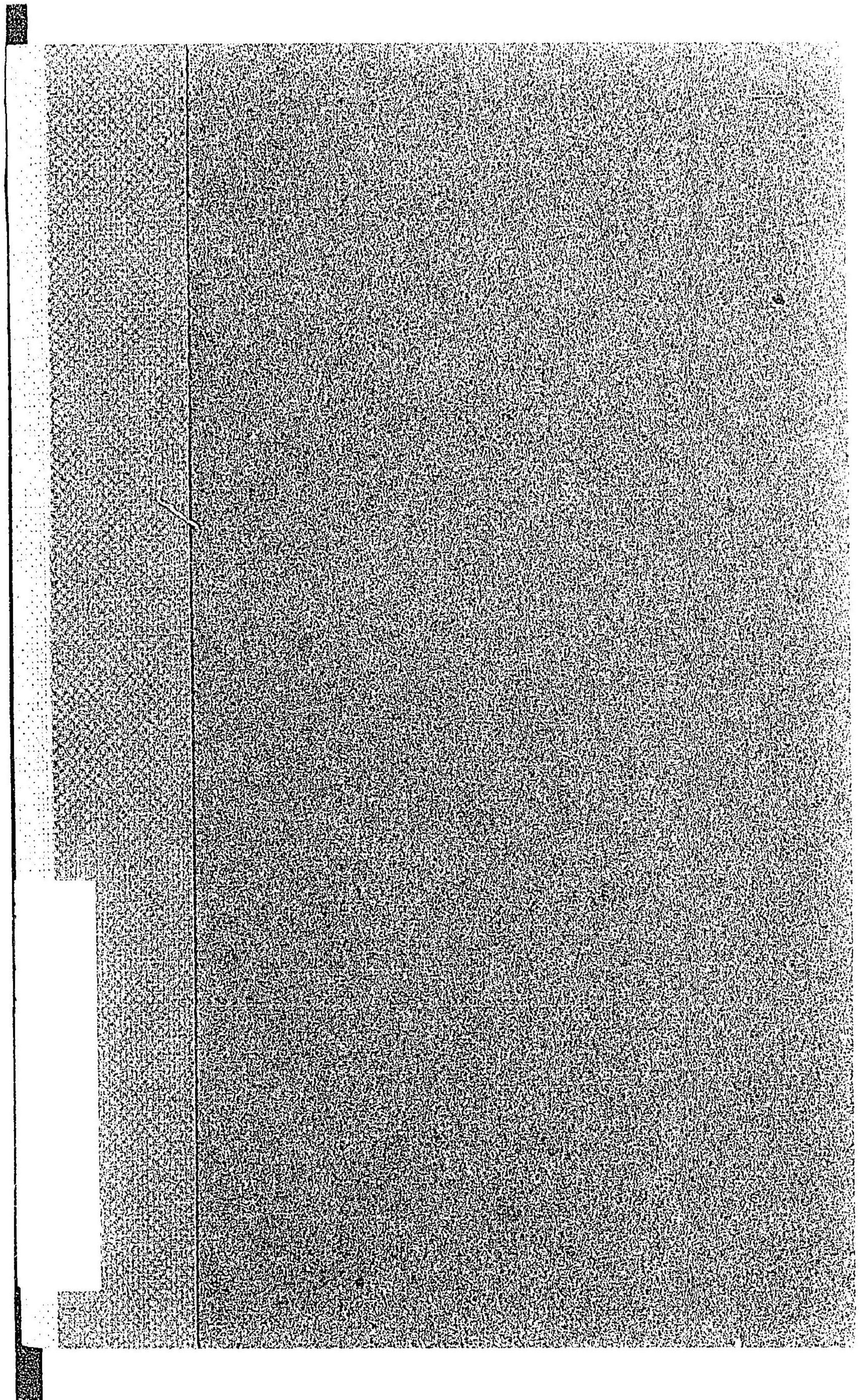
全

支

舖

所	捌	賣
京都東洞院三條上ル	全 三條通御幸町角	全 三條通寺町西入
村上勘兵衛	大谷仁兵衛	杉本甚助
京都府下相樂郡木津	全 三條通寺町東入	全 三條通寺町上ル
高崎堰川堂	福井源治郎	全 寺町通四條上ル
佐藤清進堂	田中治兵衛	全 川原町三條上ル
大西好文堂	大黒屋書舖	大阪心齋橋筋本町
高木重兵衛	辻本尙書堂	全 心齋橋筋南一丁目
高木重兵衛	全 心齋橋筋南久寶寺町前川善兵衛	全 心齋橋南久太郎町
澤田和平	松村九兵衛	大阪南久寶寺町
南波庄兵衛	森本專助	奈良縣下奈良橋本町
小川保道	岡島新聞舖	兵庫縣神戸
川瀨代助	坂田一郎	
川島九右衛門	熊谷久榮堂	
小川儀平		
中村藤平		
滋賀縣下大津榭屋町		
全 長濱		
東京南傳馬町二丁目		
東京		
辻本尙書堂		
兎屋店		







特 4 6

491

改正 徴兵令註釈

国立国会図書館

038914-000-5

特 4 6 - 4 9 1

改正徴兵令註釈

近藤 新太郎 / 編

M 2 2 . 1

B C C - 0 1 3 5

